

SHALL WE PORT? vol.8 (2010.7)

～国際交流・国際理解への旅～

CONTENTS

■特集

多文化共生のとりくみ

～就学支援・医療支援・

日本語支援・生活支援～

■新潟から世界へ

ラオスクールプロジェクト

■NIA インフォメーション

発行元／財団法人新潟県国際交流協会 Niigata International Association

特集 多文化共生のとりくみ

「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。

現在新潟県には14,000人を超える外国人が住んでいます。割合で言うと、新潟県に住む1,000人に6人が外国人です。

外国人の皆さんも、日本人と同じように働いたり、勉強したりして、日本で暮らしています。このような外国人と日本人がお互いに、同じ地域に住む住民として認めあい、共に地域づくりをしていこう、というのが多文化共生の考え方です。

多文化共生を実現するためには、外国人が日本に溶け込もうと努力するだけでなく、日本人も彼らの母国と日本との生活や文化の違いを理解し、溶け込むためのサポートをすることが必要です。



就学支援 ～日本語を母語としない子どもと保護者のための進学等に関する地域懇談会～

平成20年度から、日本語を母語としない子どもと保護者に対し、日頃彼らが学校や進学、授業等に対して不安や疑問に感じていることを解決するために、日本の学校制度や進学の仕組み、PTAなど、日本独自の取組などをわかりやすく伝える地域懇談会を開催しています。

このような説明会は埼玉県、長野県などですでに実施されており、新潟県でも国際交流の活発化から外国籍の子どもたちが増え、進学などに関する相談が増加したことから、新潟大学の学習支援サークル等と協力して活動を始めました。平成21年度は市町村国際交流協会が主体となり、各地の通訳ボランティア、留学生の手助けも得て、県内3地域で開催することができました。

懇談会では中国やフィリピン、ペルー、ブラジル、ロシア、タイなど様々な国からきた子どもや保護者が多数参加し、学校の先生たちに熱心に質問をしていました。また「子どもたちは日本語の日常

会話には不自由していないが、学校の先生は日本の子ども向けに話をするので、自分の子どもが本当に内容を理解しているのか、わからない。」「学校だけでなく、家庭や地域で子どもに教えなくてはいけないことがあると思うが、それを教えることができない。」といった外国籍の保護者の悩みや、「子どもに対して日本語の特別支援がない。勉強についていけないのか、不安である。」という、外国人配偶者の子どもを引き取った日本人夫からの話もありました。



言語グループに分かれての説明

【平成22年度 進学等に関する地域懇談会 開催予定】

7/31(土) 14:00～15:30 柏崎市市民プラザ ※新潟市は秋に開催する予定です。

8/28(土) 10:00～12:00 上越市市民プラザ

外国籍児童生徒学習支援サークルR's (新潟大学) 代表：諸橋 幸映さん

ももとは新潟の「NPO法人うちのスペース・にいがた」に参加していた大学の先輩3人が、活動の中で中国人の男の子に勉強や、日本語を教えていたことが活動の始まりです。そこから、大学生を中心に人数が徐々に増えたので新潟大学のサークルとして今は活動しています。



活動をはじめてみて、新潟には外国から来た子供たちが予想以上に多かったことにまず驚きました。子供たちと話したり、勉強を教えたりするなかで、

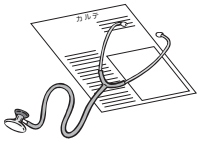
最初は日本語があまり話せなかった子が段々と色々なことを話せるようになったり、学校でのことを私たちに教えてくれたりする姿など、「子供たちが成長していく」過程を見ることができたのは、うれしい経験です。ただ宿題や勉強を見るだけではなくて、子供たちの学校、家庭以外での居場所になっているといいなと感じています。

サークルの今後の目標は、まずは、学習支援の活動を続けていくことです。

また私たちの活動場所である「クロスパルにいがた」に来ていなくても、学校の勉強などで困っている子供たちがいると思うので、手紙などで支援していけたらと考えています。子供たちにとって、気軽に来ることができて安心できる居場所を、これからも作っていきたいです。

医療支援

平成20年度から医療支援事業に取り組み、県内の医療機関を対象とした「新潟県内の外国籍住民等医療状況調査」の実施や、他団体で行われている先進的な取組みについて学ぶ「医療通訳事業勉強会」などを開催しました。平成21年度は、前年度の調査結果で多言語資料への要望が多かったことや、医療関係者等との勉強会等において窓口での対応に苦慮しているという意見があったことを踏まえ、「多言語版医療窓口対応シート」（英語、中国語、韓国語、ロシア語、ポルトガル語、タガログ語、インドネシア語、やさしい日本語）の作成を中心に事業を展開しました。この「多言語版医療窓口対応シート」は、受付、会計、保険の仕組み



など診察以外の場面で使用できるものですが、外国籍患者が置かれている状況を的確に理解し、必要な情報を提供するのに役立つ内容となっています。平成22年度の医療支援事業は、この「多言語版医療窓口対応シート」を県内の医療関係者の方々に広く知ってもらうための研修会や、外国籍住民の方を対象に、地域の医療について知ってもらう勉強会の開催などを予定しています。



◎「新潟県内の外国籍住民等医療状況調査」「多言語版医療窓口対応シート」は、当協会ホームページ (<http://www.niigata-ia.or.jp/jp/index.html>) の「資料コーナー」→「新潟県国際交流協会資料」に掲載しています。

【外国籍住民のための医療相談会】

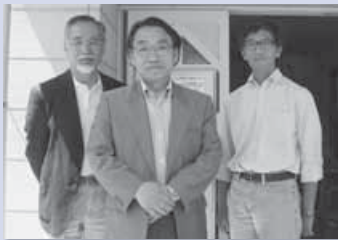
昨年6月、「第1回外国籍住民のための医療相談会」が新潟市中央区の新潟カトリック教会で開催されました。この相談会は、明倫短期大学の福島名誉教授が実行委員会を立ち上げ、県内外の医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー等の参加、協力により実施されているものです。今年は、6月6日(日)に第2回目となる相談会が新潟カトリック教会で開催され、フィリピン、インドネシア、アメリカ等出身の外国籍住民19名が相談に訪れました。今年は、新潟市北区や上越市でも開催が予定されています。今回は、これらの活動に精力的に取り組まれている、「外国籍住民のための医療相談会実行委員会」代表の福島祥紘さんにお話を伺いました。



医療相談会の様子

—外国籍住民のための医療相談会を立ち上げた経緯といきさつを教えてください—

10年ほど前に全国規模の医師仲間での会で、外国人の結核患者の増加についての話題が出たことがあります。何とかしなくてはという話でした。その頃、新潟で全国医療学生セミナーを開催して「自殺シンポジウム」を計画した際に、新潟ヘルプの会から外国人医療相談会の計画を持ち込まれたことがあり、頭に残っておりまして。1年前に2度目の大学を退職した時から、しばらく時間がとれそうで、急に実現の方向に向かったわけです。最初は数人の医療関係者を集めて、実現のための勉強会からスタートしました。新潟における外国人の数や、実際にこのような企画が必要かどうかの外国人へのアンケートの配布、他の自治体の取組みを学びあい、4回目の勉強会では、似たような規模で行っている埼玉での医療相談会の当事者をお呼びして講演をお願いし、実施を決意して次の会から実行委員会を立ち上げました。県国際交流協会やヘルプの会などと相談し、広く呼びかけたところ、県医師会や県結核予防会、福祉関係では済生会第二病院などの後援を受けることができ、ボランティアの輪が次第に広がっていききました。



福島代表と実行委員会の先生方

—これまでの医療相談会の実施状況はいかがでしたか—

1年目はとにかく1回開催する事が主目的で、組織を確実にすること、実際の治療が困難な患者が来た場合のフォローアップの病院を確定することなどに気を配りました。ちょう

ど新型インフルエンザが流行し始めており、実施するかを含めその対策にも苦慮いたしました。無料にするかどうかも懸案事項でしたが、新潟県結核予防会から無料のレントゲン車の派遣の決定をいただき、とにかくしばらくは無料で相談会を行えると確信した時はうれしかったです。通訳研修会も行い、医療関係のボランティアも55名に達し実施にこぎつけたのですが、どのくらい外国の方が来られるかと心配していました。結局、第1回目の相談会には、フィリピン、中国、ロシア、フランス、パキスタンなど計28名の外国籍住民が相談に訪れました。その後、実施報告書を印刷し、次年度への橋渡しを考えたところで私が体調を崩し入院しまして、これは事務局をきちんとしなくてはと反省し、かえって良い方向へと進めることができたと思います。

2年目の今年はスタートが遅れましたが、組織を引き締め、むしろ発展させるために年3回の開催を考えております。1回は去年と同じ場所で、2回目は東港近くのパキスタン人主体の相談会を、3回目は上越市で外国人花嫁さんを中心とした会を開く予定です。つまり、医療で困っている外国人のおられるところへ、こちらから出かけてゆくという方向です。

—今後の活動について教えてください—

3年目以降は、長岡地区や柏崎地区などへの展開を考えております。会自体としては、財政的に安定化するための方策を考え、県・市などの自治体や医師会など、また領事館との関係を深めるなど、地域における医療として外国人対策を考えてゆく予定です。今後数年は中国人を中心に大規模な増加が予想されるわけで、多文化共生社会の課題を深化させる意味でも大切な問題であると思っております。

日本語支援 ～日本語ボランティア育成事業～

地域での日本語学習支援の充実をはかるとともに、地域に住む外国籍住民と日本人との相互理解を推進するために、日本語ボランティアの能力や指導力の向上を目指した日本語ボランティア育成事業を、平成20年度から実施しています。

過去2年間で開催した研修・講座は延べ27回になりました。

【日本語ボランティア育成事業 実施団体】

平成20年度 にほんごの会ネットワーク（新潟市）、（社）上越国際交流協会

平成21年度 佐渡国際交流ネットワーク協議会、新発田日本語教室

平成22年度 五泉市国際交流協会、長岡市国際交流センター

委託団体の一つ、平成21年度に事業を実施した新発田日本語教室では、30名あまりの外国籍住民等を対象に、日本語支援や学習支援を行いながら、外国籍住民との交流を深めています。昨年実施の全10回の講座は、25名いるボランティアの能力向上や意識啓発につながったようです。

（講師は（社）国際日本語普及会：松尾恭子氏、新潟国際情報大学：佐々木香織氏 他）



育成研修の様子

【新発田日本語教室 代表：高橋紀子さん】

—日本語教室を始めたきっかけは何でしたか—

平成9年のはじめ、新発田市内に住む外国人花嫁さんたちからの日本語を教えるという声を受けて、友人のボランティアと二人で、サークルのような形で勉強を始めました。フィリピンとタイ出身の人が多かったのですが、厳しい環境のもとでも、お国柄がみんな明るく健気にかんがっていることに感銘を受けました。これは、私にとって初めての体験であり、同性としても彼女たちを応援したいと強く思ったので、市に働きかけ、同年5月、新発田日本語教室が発足しました。

—日本語を教えるとき、大切にしていることは何ですか—

地域のボランティア日本語教室に通ってくる学習者は、今この時から生きていくために日本語を必要としています。

彼らが、この地域で、市民として安心して暮らせるためにどんな日本語が必要なのか、またどんなコミュニケーション手段がよいのか、私たちはもう一度自分が生活の中で使っている日本語をよく検討し、選び、わかりやすく学習者に伝えることが、地域の日本語教室の役割の一つと考えています。

—日本語ボランティア育成事業の実施はいかがでしたか—

新しい日本語ボランティアはどうしても必要ですし、既存ボランティアのスキル向上や、外国人支援のための知識や感覚を磨くことも必要ですので、発足以来、毎年日本語ボランティア養成・スキルアップ講座を実施してきました。昨年度の講座は講師の方々から、大変具体的でわかりやすく、すぐ実践に役立つ講義をしていただきました。

—どのような日本語教室を目指していますか—

まず、誰でも、いつでも受け入れること。来る者は拒まず、去る者は追わず、誰にでも開かれた教室でありたいと思っています。阿賀北の地域には日本語学校はなく、新潟市の日本語学校で勉強するには、かなりの費用がかかってしまうので、誰でも受け入れたいと思っています。

次に、学習者にとって、この教室がほっとできる場所だったらいいなと思います。友達と自分の国の言葉で話したり、自己実現を目指して日本語の勉強に集中したり、心を開いて、自分らしい時間を過ごす場を提供できればと思うのです。ボランティアにとっても同じで、相互に支え合いながら、生き生きと自分の役割を果たしている仲間の姿は、みんなの力になります。

日本語支援や生活相談は、これからも新発田日本語教室の大事な柱ですが、外国籍児童への学習支援などニーズが多様化し、ボランティア教室の前途は問題山積みです。今後、地域の日本語教室の役割はますます重く、多様になっていくと思われませんが、私たち現場の声を少しでも行政に届けることができればと思っています。



◎県内の日本語教室情報は県協会ホームページ（<http://www.niigata-ia.or.jp/jp/>）の「日本語教室情報」から検索できます。

生活支援 ～一人で悩まずに、相談してください～ 在住外国人のための多言語生活相談窓口～

毎週火曜日～金曜日の10：00～13：00まで、電話（025-241-1881）での多言語生活相談を行っています。

生活全般について相談できます。また、相談内容によっては、来所しての相談もできます。

県内在住の外国籍住民およびその関係者の方であれば、どなたでも無料で相談できます。

プライバシーは厳守されますので、安心してご相談ください。

火曜日	第1・3・5水曜日	木曜日	金曜日
タイ語	中国語	英語・タガログ語	インドネシア語

対応時間 10：00～13：00 ※祝日、年末年始はお休みします。



◎県協会ホームページ（<http://www.niigata-ia.or.jp/jp/>）の「生活相談窓口」では、県内の多言語生活相談窓口をすべて掲載しています。ポルトガル語、韓国語など、当協会が実施している以外の言語での生活相談窓口も掲載されていますので、ぜひご覧ください。

新潟県内の学生が中心になり、ラオスに教育支援を行っている団体「ラオスクールプロジェクト」の活動を紹介します。

「ラオスの子ども達に 夢のきっかけを！」

●ラオスクールプロジェクト 片岡 憲一

こんにちは！私達、ラオスクールプロジェクト（以下「LSP」）は、ラオスの子ども達に夢や目標を持ってもらうことを目的とし、学校建設、教材開発といった支援活動を行っています。

私は、馬小屋のような校舎で勉強している子ども達や、教科書が一人一冊も行き渡らないといったラオスの現状を知り、とても強い衝撃を受けました。そして、これはなんとかしなければ！と思い、今年の3月LSPを設立しました。

主な活動内容は、学校建設の資金を得るために、街頭募金やフリーマーケット、イベントへの出店を行い、市民の皆様からご協力をいただ

いています。2009年3月の活動開始から2010年の3月時点までで約150万円のご支援をいただくことができました。目標金額は350万円です。まだまだ先は長いですが、仲間たちと共に全力で活動に励み、必ず達成したいと思っています。ただ学校を建設して終わり…ではなく、その後の経過も把握し、適宜支援を行っていき

たいと思います。今年度は、教材開発やスタディツアーを企画し、より幅広く精力的に活動を展開していきたいと思っています。もし万代や古町などで私達の活動を見かけることがありましたら、あたたかいご支援をよろしくお願いたします。



万代シティでの募金活動

活動報告

NIAインフォメーション ～NIAの活動報告とお知らせ～

ロシアスタディツアーを実施しました！

平成21年12月19日（土）に開催した「国際理解教育プレゼンテーションコンテスト」で、最優秀賞を受賞した、CHALLENGER（小千谷市立小千谷中学校）と県立新潟工業高等学校ボランティア同好会の2チームを、3月19日（金）から22日（月・祝）まで、ロシア・ハバロフスク市へのスタディツアーに派遣しました。ハバロフスクでは、芸術センターで絵を習っている生徒や、ダンスアンサンブルの生徒、動物園で手伝いをしている生徒、学校で日本語を勉強している生徒と交流を持ち、ロシアの芸術や環境保護の精神に触れました。また、ホームビジットでお互いの国について教えあい、文化の違いについて学びました。今年度も平成22年度国際理解教育プレゼンテーションコンテストを12月11日（土）に開催します。奮ってご参加ください！

参加者の声 ※一部抜粋

- ・小さいころから世界に関わっていたら、もっと日本は国際色豊かな国になると思う。そんな日本になるよう、これから自分でできることを見つけて活動していきたい。
- ・スタディツアーから、「外国＝遠い」のままではいけないということを知った。互いが歩み寄るためには、互いの「違い」をしっかりと理解しなければならないことに気づかされた。
- ・どの訪問先に行っても歓迎を受け、日本の事について積極的に聞いてくる姿に驚いた。習慣、文化などの違いはあっても、人の温かさはどの国も同じなのではないかと思った。



ダンスアンサンブル「ロードスチ」のメンバーと記念撮影

お知らせ 1

平成22年度国際理解教育 プレゼンテーションコンテスト 参加チーム募集！

学校での教科、「総合的な学習の時間」、クラブ活動、又は地域での活動などにおける、国際理解をテーマにした取組みや学習の成果を発表する「プレゼンテーションコンテスト」に参加する中学生・高校生チームを募集します。

中学生部門及び高校生部門の最優秀賞を受賞したチームを、副賞として海外スタディツアーに派遣します。（今年度は、韓国・ソウル市を予定しています。）

日時：平成22年12月11日（土）
10:00～17:00（予定）

場所：朱鷺メッセ
募集部門：中学生部門・高校生部門
各部門最大10チーム
1チーム 生徒3名以上+指導者
(成人) 1名以上

出場を希望するチームは、所定の応募用紙を平成22年9月30日（木）必着で（財）新潟県国際交流協会まで送付してください。募集要項・応募用紙は当協会HP「県協会ニュース」からダウンロードできます。



お知らせ 2

国際理解ワークショップ 派遣校募集！

国際交流インストラクターの研修を受けた県内大学の学生グループが、各学校に向き、国際理解ワークショップを行います。複数のテーマから希望する内容を選択できますので、社会科、総合学習の時間、HRなどで、ご利用ください。

対象：小学校、中学校、高校
募集期間：平成22年8月13日（金）まで
実施期間：①平日

前期 平成22年9月1日（水）～9月30日（木）
後期 平成23年2月1日（火）～3月4日（金）
②土日・祝日

平成22年9月4日（土）～3月6日（日）の間
時間：90分程度（ご相談に応じます）
（例）アイスブレイク→ワークショップ
→アンケート記入・質問

費用：インストラクター派遣の費用は無料
実施要項と申込み用紙を、当協会HP「県協会ニュース」からダウンロードし、FAXかE-Mailでお申し込み下さい。

※ワークショップ実施日の2週間前までに、担当学生が打ち合わせを行います。9月派遣を希望される場合は早めにお申し込みください。



お知らせ 3

中国東北地方体験ツアー 参加者募集！

国際理解講座の海外版として、中国の中でも特に本県とつながりの深いハルビン・大連・旅順といった東北地方：小説『坂の上の雲』の舞台を巡るツアーを実施します。中国東北地方に精通されたアドバイザーが同行し、見学場所の解説などをさせていただきますので、ぜひご参加ください。

対象：新潟県内に在住の方
期間：平成22年9月15日（水）～19日（日）4泊5日

行き先：中国ハルビン・大連・旅順・錦州
アドバイザー：長岡大学教授 児嶋俊郎氏

参加費：1人あたり95,000円
（1人部屋を希望される場合は113,000円）
※期間中の宿泊費、食事代、施設見学料等含む。

最小催行人員：15名（定員20名）
応募期限：平成22年8月6日（金）まで
※定員になり次第、締め切ります。

問い合わせ先：新潟県国際交流協会
☎025-290-5650

※詳しくは当協会HP「県協会ニュース」掲載のチラシをご覧ください。

当協会では国際関係の取り組みをしている高校、大学の情報、国際交流団体のイベント情報を募集しています。「学校の取り組みを紹介して欲しい」、「イベント告知をしたい」などの情報をお寄せ下さい。内容を確認の上、広報誌紙面やメルマガ等でお知らせします。